

ごあいさつ

新型コロナウイルス感染症対策をはじめ 札幌で暮らす全ての皆様にとって 安全で安心できるまちづくりに取り組みます。

春光うらかな季節となりましたが、札幌市民の皆様、厚別区の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、私こじまゆみの議員活動、地域活動にご理解とご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、皆様の暮らしは大きく様変わりし、先の見えない日々不安を抱えていらっしゃるものと存じます。議会ではコロナ対策に大規模な予算を確保し、皆様が安心して暮らせるまちづくりに懸命に取り組んでおります。また、不妊治療や産後ケア事業など、女性が抱える課題についても活発な議論を重ね、成果を上げてまいりました。

議員生活も4期目の折り返しとなり、私こじまゆみは地域の皆様のため、市民の皆様のために全力で働いてまいります。今後ともよろしくお願いたします。

札幌市議会議員
こじま ゆみ



新住所 / 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20

office@kojimaiyumi.jp | http://ja-jp.facebook.com/yumi.kojima.1232 | http://kojimaiyumi.jp



事務所
移転しました!

こじま ゆみ 政務調査室 ☎ (011) 896-6633

こじま ゆみ

札幌市議会議員 厚別区 小嶋 裕美

住みたい! 学びたい! 訪れたい! あつべつに。



こじま ゆみ Profile

- 昭和41年生まれ
- 道立札幌東高卒業
- 札幌医科大学看護学卒業
- 札幌社会保険総合病院ほかで勤務
- 平成19年、札幌市議会議員に初当選し
平成31年、4期目当選

おもな役職 (R3.4.1~)

- 札幌市議会自由民主党議員副会長
- 新型コロナウイルス感染症調査特別委員会委員長
- 建設常任委員会委員
- 冬季オリンピック・パラリンピック招致調査特別委員会委員



ゆみレポート 特定不妊治療費の助成が拡充されます

体外受精及び顕微授精は、1回の治療費が高額であることから、その経済的負担を軽減するため、札幌市では治療に対して支払った費用の一部を助成する「特定不妊治療費助成事業」を実施しています。令和3年3月3日から、下記の内容で助成を拡充いたします。

拡充の内容	拡充の対象
●対象者: 戸籍上の夫婦、事実上婚姻状態にある男女	令和3年1月1日以降に終了した治療を対象
●所得制限: 撤廃	●施行日: 令和3年3月3日~
●助成額: 1回30万円を上限。 ※調剤経費等(保険を伴わないもの)及び採卵した方が得られない等のため中止したものについては、1回10万円	●問い合わせ先: 札幌市不妊専門相談センター 〒060-0042札幌市中央区大通西19丁目19-3階 TEL:(011)622-4500 FAX:(011)622-7221 ※月~金曜日(年末年始・祝祭日を除く) 8:45~12:15 13:00~17:15
●助成回数: 1子ごと6回まで(40歳以上43歳未満は3回) ※出産または妊娠12週以降の死産により、助成回数をリセットすることができます。	
●対象年齢: 変更せず治療開始日の妻の年齢が43歳未満	
●男性不妊: 1回30万円を上限(精子を精巣又は精巣上体から採取するための手術)	

YUMI トピックス 新さっぽろ駅G街区に2つのキャンパス誕生!

再開発が進められている「新さっぽろ駅周辺地区開発事業G街区」に4月1日、札幌学院大学の札幌キャンパスが誕生しました。これにより、同大学は江別市又京台の江別キャンパスと札幌キャンパスの2つのステージで、将来を担う若者たちの大学教育を展開していくこととなります。

さらに、このG街区には学校法人滋慶学園が新設した札幌看護医療専門学校も開校し、両校は学術交流協定を締結しました。経済経営学部と大学院地域社会マネジメント研究科からスタートし、2022年度には心理学部、大学院臨床心理学研究科及び心理臨床センターが移転する札幌学院大学と、先進的な医療技術が学べる札幌看護医療専門学校の開校によって、新さっぽろ駅周辺地区の文教エリアは学生たちが行き交う活気あふれる地域になっていくことと思われます。今後ともさまざまな施設の開設が計画されている新さっぽろ駅周辺地区にご期待ください。



こじま ゆみ 市政報告

[令和3年 第1回 定例会市議会] 2月17日▶3月30日

令和3年第1回定例会が2月17日から3月30日までの日程で開催されました。3月12日の予算特別委員会では代表質問の機会を頂戴し、兼ねてより取り組んでおられます不妊治療や産後ケア事業について質問させていただきました。新型コロナウイルス感染症対策案も含め、有意義な議会になったことをここに報告いたします。



不妊治療への支援について

Q 仕事をしながら、不妊治療を行っている女性の実態と治療を継続する上で、女性が抱えている悩みの現状は？

A ●令和元年度に特定赴任治療費助成事業を申請した1,886人のうち1,206人(63.9%)が仕事を抱えている実態が明らかになっています。
●申請者は仕事を頻りに休まなければならないことや、治療のことを職場に言えないといった悩みを抱えています。[少子化社会対策大綱]に示されているように、仕事と治療を両立できる環境づくりが「女性がさらに輝き活躍する街」づくりに寄与するものと考えています。

Q 不妊治療と仕事が両立できるような社会や職場への理解を推進するための取組の状況は？

A ●特定不妊治療費助成事業の申請者の大半を占めているのは30歳代後半の年齢層で、企業の第一線で活躍している年代になります。
●不妊治療と仕事の両立の難しさによって、仕事を辞めざるを得ない状況は企業にとっても大きな痛手となることから、札幌市ではワーク・ライフ・バランスの取組みを進める男女参画課との連携やホームページを利用したメッセージの発信など、社会、職場への理解が進む取組みを推進していきます。

産後ケア事業について

Q 出産後の母子に対して支援を行う産後ケア事業の委託単価の見直しの内容と市民への影響は？

A ●産後ケア事業は北海道助産師会に事業を委託していますが、委託単価は他の政令指定都市と比べて低めであり、受託者の負担が大きくなっています。
●札幌市では同会からの要望に基づき、委託単価の増額を行い、利用の促進を図ることとしました。利用料の市民負担は宿泊型が2000円、日帰り型は500円の増額となりますが、皆様のご理解をお願いいたします。

Q 利用料の増額に見合ったサービスの提供のための取組み内容は？

A ●宿泊型の利用時間の延長や利用できる子の月齢を広げるなど、サービスの向上を図りながら、アンケート調査による検証を行っています。
●札幌市では北海道助産師会と連携し、どの助産所でも質の高いケアを受けられよう、ケアの平準化を図る仕組みづくりに取り組んでいきます。



Q 今後の産後ケア事業の方向性は？

A ●ウイズコロナの時代においては産後ケア事業の市民ニーズが多様化することが想定されることから、現在、市内11カ所の助産所のみで提供しているサービスを医療機関でも実施できるよう、今後検討を進めていきます。
●また、妊娠前から子育て期までの切れ目ない支援において、産後ケア事業の果たす役割は大きいものと認識しており、今後も利用月例の延長など、柔軟なサービスの提供について、検討していきます。

新型コロナのクラスター対策について

Q クラスターの発生を防ぐために行われる予防的スクリーニング検査の陽性率及びクラスター発生防止の効果は？

A ●札幌市では令和3年3月8日時点で、医療機関約5,300件、高齢者施設約9,300件、障がい者施設約1,700件で、予防的スクリーニング検査を行いました。陽性者は発生していませんでした。
●新型コロナウイルス感染症は発症前から感染性を持ち、感染しても無症状の場合があることから、施設等にウイルスを持ち込まないためには無症状者も含め、陽性者を早期に発見する必要があります。
●予防的スクリーニング検査の実施はクラスターの未然防止に一定の効果があるものと考えられることから、引き続きの実施と検証を行っていきます。

Q 高齢者の施設内での軽症感染者に対する施設内療養の状況は？

A ●高齢者は重症化リスクが高い上、施設内で感染が拡大すると、職員にも大きな負担が生じるため、原則は入院が必要と考えますが、介護等が必要な患者様を受け入れる医療機関の病床が逼迫しているのが現状です。
●施設内に陽性者が発生した際、札幌市では施設職員に対し、個人防護着の着脱方法や感染防止対策の指導、物的・人的支援などを行うことで、施設内療養で対応できると考えています。
●今後も国の動向を注視し、施設入所者の生活の質の維持やADLの低下防止の観点から施設内療養も対応の一つとして考えていきます。

新型コロナのワクチン接種について

Q 4月から始まる高齢者向けワクチンの供給量は今後、増加することが見込まれていますが、札幌市での準備状況は？

A ●国は「6月末までに全高齢者が2回摂取できる量のワクチンを全国の自治体に配送完了できる」との見通しを示しています。
●札幌市では5月以降、大量のワクチンが供給される可能性もあることから、札幌市医師会や北海道看護協会などの関係団体と協議を重ね、接種会場の確保や予約専用コールセンターの開設、ホームページやアプリを活用した予約受付システムの確立などの準備を進めています。



事業継続支援、検査体制やワクチン接種体制の整備を推進

札幌市独自のコロナ対策規模 総額4662億円を計上致しました!

第4回定例会(11月)決定分 約39億円

医療提供体制の強化と感染拡大防止 約14億円

・感染者の移送体制強化 6億8000万円
・高齢者、障がい者施設PCR検査費用補助 1億4200万円

事業継続と雇用の維持及び市民生活支援 約25億円

・すすきの地区の事業者への協力支援(事業者あたり20万円) 8億8000万円
・すすきの地区の事業者への協力支援(追加) 15億4000万円

臨時市議会(12月・1月)決定分 約82億円

感染拡大防止 約20億円

・すすきの地区PCR検査、感染防止対策助成金 3億6000万円
・新型コロナウイルスワクチン接種費 13億3000万円

事業継続と雇用の維持及び市民生活支援 約62億円

・すすきの地区の事業者への協力支援(再追加) 15億4000万円
・時短要請に応じた事業者への協力支援金(追加) 30億2000万円
・ひとり親世帯への臨時特別支援金(追加) 16億1000万円

第1回定例会(2月・3月)決定分 約214億円

感染拡大防止 約119億円

・新型コロナウイルスワクチン接種費(追加) 95億円
・学校、障がい児童施設等における備品購入支援 13億7000万円
・介護、障がいサービス事業所、医療機関へのリスク低減支援 5億9000万円

事業継続と雇用の維持及び市民生活支援 約54億円

・市内全域の飲食店等に対する時短要請協力支援金(追加) 41億6000万円
・時短要請の影響を受けた事業者への一時金支給 8億円
・中小企業相談、テレワーク等の導入補助 2億2000万円

経済活動の回復、デジタル化の推進と市民サービスの向上 約41億円

・市内宿泊施設誘致支援及び感染対策経費補助 11億1000万円
・ウイズコロナにおける新分野進出等の中小企業補助 3億円
・飲食店等の販促促進キャンペーン補助 5億1000万円
・国内観光需要回復キャンペーン 1億5000万円
・市におけるテレワーク環境整備 7億5000万円

※内容については主な事業等のみ計上、金額は3月3日現在

お気軽にお立ち寄りください! こじま ゆみ 政務調査室 ☎004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20 (011)896-6633

新型コロナに関する支援策の詳細は、札幌市ホームページ内「新型コロナウイルス感染症について」
https://www.city.sapporo.jp/kinkyu_202002.html をご確認ください。

